

オミクロン株による COVID-19 の入院要否の判断目安

令和5年4月7日

長野県新型コロナウイルス感染症対策専門家懇談会

先生方には日頃より COVID-19 の診療にご尽力いただき深謝申し上げます。

COVID-19 は、5月8日の5類移行に伴い、幅広い医療機関で対応していただくこととなります。オミクロン株による COVID-19 は、肺炎は稀で、従来株に比べ重症化のリスクは低くなっていますが、感染力は従来株より強く、感染が急拡大する可能性も残されています。

このような特徴を踏まえて、入院要否の判断目安を提案します。下記のいずれかに該当する場合は入院を検討することになりますが、これまでの患者さんやご家族との医療・ケアについての検討状況や病床の逼迫度合いなども考慮して、総合的にご判断ください。

1. 食べられない、ぐったりしているなど、全身状態の悪化
2. 基礎疾患が悪化し、外来、往診先や高齢者施設等での対応が困難
3. パルスオキシメータによる SpO₂ が 90%以下あるいは平常時より 5%以上の低下(注)

注； SpO₂ は、脱水や寒冷で血流が低下したり、指の汚れやネイルアートなどの要因で誤差を生じます。

測定時は、脈波が十分に感知されていることを確認し、繰り返し測定することが重要です。

発症直後は高熱による酸素消費量増加で SpO₂ が低下している可能性もありますので、重症感がなければ経過観察することもお検討ください。

参考文献

日本呼吸器学会（編）：よくわかるパルスオキシメーター。

(お願い)

発症から 5 日以内、かつ重症化リスクが高く病状の進行が予期される場合は、抗ウイルス薬（モルヌピラビル（ラゲブリオ[®]）、ニルマトレルビル/リトナビル（パキロビッド[®]パック）、レムデシビル（ベクルリー[®]点滴静注用））の投与をご検討ください。